

大山を日本遺産へ申請は？



大杖 正彦 議員

町長

大山の魅力発信のため 取り組みたい



開山1300年をひかえて

【大杖】大山には、1300年という歴史や阿弥陀堂・大神山神社・大山寺などの建造物に加え、なにより大山という名勝地もある。さらに御幸行列や僧兵太鼓、もひとり神事といった伝統・風習も受け継がれている。これらをさらに生かすため、日本遺産への登録をめざしては。

【町長】日本遺産制度は、文化や伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、文化財などを利用して外国人などの観光客の増加をはかる地域振興事業を進めたい。

認定申請には「伯耆の国の大山」という近隣市町村を巻き込んだ広域的な取り組みを進めたい。

開山1300年を絶好の機会ととらえ、大山を中心とした日本遺産認定にむけて取り組みたい。

【大杖】申請に重要なポイントとなる歴史的ストーリーと戦略は。

【町長】大山の豊かな水と大地の恵み、日本三大といわれる牛馬市、これを大山道でつなげるストーリーを考えている。

自宅での看取りは？

町長

家族の協力が重要である



近藤 大介 議員



「自宅で最期を迎えたい」が半数以上

【近藤】内閣府の調査によれば、国民の半数以上は自宅での最期を望んでいる。

自宅での看取りについて本町の現状と課題は。

【町長】住みなれた自宅で家族とともに、限られた時間を過ごし、自然な最期を迎えるということは大切だと思っている。家族で介護をしたり、看取ることを通して、老いや死、命の大切さ、家族の大切さを伝えていくことにもつながる。

30年前までは自宅で

の看取りが8割だったが、現在は病院、介護施設などでの看取りが8割となった。自宅での看取りは、特に家族の理解、協力が重要と考えている。

本町では平成23年に、自宅での看取りを支援する仕組みとして「はるか窓口」を開設した。これまで9人の登録があったが、既に亡くなる、現在は登録者がゼロである。

PRが不足している面もあり、機会を捉えて広報も必要と思う。